

第3号報告

平成30年度 事業計画の件

別紙の平成30年度事業計画について報告する。

平成30年度 事業計画

I 計画策定の背景・現状

1. 近年、経済活動のグローバル化が目覚ましく、人の移動や物流が活発化する中、中国や台湾などの近隣諸国では高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫をはじめとする重篤な家畜伝染病が継続して発生している。

我が国においても重症熱性血小板減少症候群（SFTS）やデング熱が発生するなど、人と動物の共通感染症に対して国民の関心が高まっており、その感染防止対策と危機管理体制の構築は喫緊の課題となっている。

特に高病原性鳥インフルエンザは、家禽飼養農場や野鳥において発生が確認され、養鶏産業が盛んな本県においては最大限の侵入防止対策を講じる必要があるが、中国や台湾においては、鳥から人へ感染するH7N9型ウイルスが確認されており、人との共通感染症の観点からも徹底した防疫体制の強化が求められている。

2. 狂犬病については、日本の周辺国を含む世界の殆どの地域で依然として発生しており、我が国は常に侵入の脅威にさらされていることから、万一の侵入に備えた対策が重要となっている。

このような中、狂犬病予防法で定められている飼い犬の登録と年1回の予防注射の義務に対して疑問を投げかける新聞報道がなされた。1957年以来発生が無い我が国の狂犬病発生防止対策の成果を評価しないものであり、万一国内で狂犬病が発生した場合にそなえて、今後も飼い犬の登録と予防注射を確実に行う必要がある。

3. 小動物分野においては、2016年の全国犬猫飼育実態調査によると猫はほぼ現状維持で推移しているのに対して、犬は2008年をピークに減少を続け、2024年には現在から300万頭程度減少すると試算されている。

人口の高齢化に伴い、散歩を伴にする犬の頭数は飼い主が70歳以上となると特に減少する傾向となっており、ペットとの暮らしが健康にとって、また、日々の暮らしにとって潤いや生きがいとなること等を関連業界と連携して広報する等減少防止策を進める必要がある。

4. 平成28年の本県の農業生産額は約2,609億円であり、そのうち畜産分野は約6割（1,578億円）を占め、我が国における有数の畜産県であるが、近年、生産者の高齢化とともに担い手不足

が叫ばれる状況となっている。

このような状況の中、産業動物、畜産家畜衛生分野においては、適切な獣医療の提供及び農場HACCPの導入指導、また、家畜衛生対策の充実を図り、担い手農家の生産性向上や経営の安定を支援して生産基盤の強化を図る必要がある。

5. 公衆衛生分野においては、食の安全・安心に対して国民の関心が高まるなか、生産現場から食卓までフードチェーン全般にわたる衛生対策は一層レベルアップが求められている。

また、本年度、国においては動物愛護管理法の改正が予定されているが、終生飼育に向けて支援するとともに、犬と猫へのマイクロチップ（MC）装着の義務化と狂犬病予防法に基づく犬の登録制度にMCによる個体識別が代替活用されるような改正が望まれる。

6. 近年、地震や集中豪雨などの自然災害の発生が多く、平時から防災意識を高め、災害発生時の動物救護支援体制を整備しておく必要がある。

7. 本会は、以上のような基本的な認識に基づいて平成30年度の事業活動を推進し、また、「One World, One Health」の実現に向けて、医師会や歯科医師会とも連携し、人と動物が共存する豊かな社会を目指して獣医師が果たす役割と法人としての責務を果たし、社会的信頼を高める活動を推進する必要がある。

II 基本方針

I の背景・現状等を踏まえ、岩手県獣医師会としてこれら社会的要請に応じていくため、実施事業としての公益事業はもとより、その他事業としての収益事業及び共益事業等について、平成30年度においても次の基本方針に基づき取り組んでいくこととする。

- (1) 獣医学術の振興・普及、獣医療技術等の向上及び情報発信
- (2) 動物の愛護・福祉及び野生鳥獣保護・管理等の推進
- (3) 狂犬病等の人獣共通感染症対策の推進
- (4) 食鳥検査事業の円滑な運営と安全で良質な食鳥肉等の提供
- (5) 社会的な要請に応えうる獣医師専門職の人材育成
- (6) 職域部会・専門委員会活動等の推進による組織体制強化
- (7) 組織基盤強化と法人運営の適正化

Ⅲ 事業別活動内容

1. 実施事業（公益事業）

(1) 獣医学術の振興・普及、獣医療技術等の向上及び情報発信

- ア 学術・研究分野及び獣医療、家畜衛生・公衆衛生分野等に従事する獣医師が、日頃の業務を通じて調査・研究した事例等を学会の場に報告し意見交換を行う獣医学術東北地区学会及び東北地区獣医師大会を、公益社団法人山形県獣医師会の主催、東北地区獣医師会共催により、10月11日(木)・12日(金)に山形市で開催する。
- イ 会員に対して、学会への積極的な参加・発表を促すことにより、専門知識・技術の習得による人材育成につなげ、適切な獣医療技術の提供や公衆衛生等の発展向上に資するため、上記地区学会・大会及び日本獣医学術学会年次大会における発表者や表彰者に対する参加助成を行う。
- ウ 会員による獣医学術研究成果である論文や産業動物・小動物の獣医療及び畜産・公衆衛生等の獣医事等に関する最新情報等をホームページ等で会員を含め広く社会に発信する。
- エ 本県で開催される獣医学術に関する各種研究会・学会等を支援する。

(2) 動物の愛護・福祉及び野生鳥獣保護・管理等の推進

- ア 動物の愛護と適正な飼養について幅広い啓発を図るとともに、獣医師と行政や市民との交流を深めるため、各支会において、保健所・動物愛護団体等と連携しながら、動物愛護週間を中心に市民参加の動物ふれあいフェスティバル等の様々な行事を開催する。
また、公益社団法人日本獣医師会が主催する「動物感謝デー in JAPAN」の協賛や岩手県が設置する動物愛護推進協議会や動物愛護推進ボランティア事業にも協力し、必要な支援を行う。
- イ 捨て犬・捨てねこ防止対策の啓発・推進及び人と動物との共生を図ることを目的として、犬・ねこの飼い主及び地域ねこの管理者等に対して、不妊手術を行った場合に費用の一部を助成する。
- ウ 動物愛護週間行事等を通じ、動物の愛護・管理に係る個体識別の意義とマイクロチップ装着の効果等を市民及び動物の所有者に広報し、所有者責任の意識高揚とマイクロチップの普及啓発を図る。
- エ 岩手県及び盛岡市との委託契約により、所有者不明の負傷動物について、苦痛の軽減や延命を図るための応急治療を行う。また、幼傷病野生鳥獣の一次救護としての応急治療を行い野生復帰に繋げるとともに、行政が行っている野生動物保護・自然環境

保全に関する専門知識・技術修得のためのセミナー等を共催する。

オ 自然災害が発生した場合は、岩手県獣医師会災害時動物救護対策要領に基づき岩手県災害時動物救護本部と連携し、被災動物の応急治療及び保護・管理、衛生指導等を担当する。

(3) 狂犬病等の人獣共通感染症対策の推進

ア 狂犬病に関する基本知識と狂犬病予防注射の重要性についてラジオ放送等を通じ社会一般に対し広報し啓発に努める。また、会員動物病院に於いても飼い主に対する狂犬病に関する基本知識の普及・啓発に努める。

イ 狂犬病予防対策全般について、県及び市町村・保健所との連絡会議等を通じ連携を強化する。また、支会、責任担当獣医師及び指定獣医師が緊密な連携を図ることにより、狂犬病予防注射業務を円滑に実施する。

ウ 狂犬病予防注射事業実行委員会による指定獣医師の委嘱等を円滑に行い、狂犬病予防注射業務を組織的・効率的に取り組み、業務の確実な実行性を図る。

エ 狂犬病予防注射指定獣医師等を対象に、狂犬病をはじめとする人獣共通感染症に関する最新の科学的知見や発生状況、診断方法及び発生時の防疫対策等をテーマとした研修会を開催し、これら感染症に対するリスクに備える。

2. その他事業（収益・共益事業）

(1) 食鳥検査事業の円滑な運営と安全性及び衛生が確保された食鳥肉の提供

ア 食鳥検査事業を巡る動向に変化が想定されるなか、食鳥検査事業が円滑に運営されるよう、行政及び食鳥処事業者との緊密な連携を図っていく。

イ 安全性が確保された衛生的な食鳥肉が提供されるよう、検査員の専門研修や精密検査体制の充実に努めるとともに、食鳥処事業者と連携した研修事業の充実に努める。

ウ 関係農場での疾病予防対策に有効に活用され、疾病の少ない食鳥が生産されるよう、食鳥検査結果のフィードバック体制の充実に努める。

エ 高（低）病原性鳥インフルエンザ対策において、食鳥検査現場での簡易検査（スクリーニング検査）体制等の充実強化とともに連絡体制を含む危機管理体制の充実強化を図り食鳥処理場から被害が拡散しないよう早期発見等に努める。

オ 行政機関及び関係団体が企画・実施する食品衛生（食鳥肉衛生を含む。）、食育関係事業等について、効果的に推進されるよう協力等を行う。

カ 永年の課題であった食鳥検査センターの建設が実現されることから、新食鳥検査センターに係る新たな価値の創出に向けて検討を進めて行く。

(2) 社会的な要請に応えうる獣医師専門職の人材育成

- ア 産業動物分野においては、健全な畜産経営を図るため生産性の向上等について飼い主等の要請に応えるとともに、獣医療に関する実践的な技術や農場経営等に関する知識を持った管理獣医師の育成等を図るための研修機会を設ける。
- イ 小動物分野においても、診療にとどまらず、小動物の飼い主等に対する保健衛生指導、さらに狂犬病等の人と動物の共通感染症の動物を取り巻く問題にも取り組むとともに、動物看護師等とのチーム医療の充実に努める等、動物医療の質を高めるために専門的且つ幅広い知識の修得を目的とした研修の機会を設ける。
- ウ 畜産・家畜衛生及び公衆衛生分野においては、「One World, One Health」の理念に基づいて、動物性食品の安全・安心の確保や人獣共通感染症対策等の共通課題等について、互いに連携強化を図り、家畜衛生、公衆衛生及び研究等の行政に関わる必要な専門知識・技術の修得を目的とした研修の機会を設ける。

(3) 職域部会・専門委員会活動等の推進による組織体制強化

- ア 獣医師や獣医療の果たす役割に対する社会的期待が従来にも増して高まってきており、獣医療・獣医事に係る諸課題について関連する部会等で協議・検討を行い、本部及び支会の事業運営に効果的に反映させていく。また、各専門委員会についても所掌する分野の諸課題について調査・研究を行い、事業化を検討する。
- イ 口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病の大規模な発生に対する危機管理体制強化のため、家畜飼養農家に対する本病に関する注意喚起、飼養衛生管理の確認・指導及び診療における家畜の異常所見時の家畜保健衛生所への迅速な通報等、「発生予防」、「早期の発見・通報」、「迅速・的確な初動対応」に重点を置いた家畜防疫体制を推進する。
- ウ 獣医事に従事していない獣医師の人材資源を活用する環境づくりとして、産業動物分野及び公務員分野及び民間分野への人材確保を支援する「獣医師人材情報窓口」の運用を推進する。
- エ 本会の組織基盤の維持・強化や事業活性化を図るためには多様な人材が求められることから、女性会員やシニア会員が参加できる事業を行う。
- オ 獣医師の人材確保については、これまで関係機関や団体に対し要請等をしてきているが、公務員獣医師や産業動物臨床獣医師の確保が深刻となっており、引き続き関係職域部会の意向も踏まえ必要な提言や要請活動等を行う。

(4) 一般社団法人岩手県医師会・一般社団法人岩手県歯科医師会との学術連携の推進

一般社団法人岩手県医師会並びに一般社団法人岩手県歯科医師会と締結した協定書に基づき、「One World,One Health」の理念を尊重し、医師及び歯科医師と獣医師が人獣共通感染症予防のための学術情報を共有して、連携・協力関係を構築し、人と動物が共存する豊かな社会の実現が図られる取り組みを推進する。

3. 組織基盤強化と法人運営の適正化

本会は、非営利且つ公益性の高い団体として、公益事業としての実施事業を確実に実施する。

また、一般社団法人としての立場から、会員のための共益事業や収益事業についても積極的に取り組み、組織基盤強化に努める。

更に、法人として自主・自律性を高めていくため、引き続き「ガバナンス」及び「コンプライアンス」を重視した法人運営を推進していく。

IV 支会による地域活動

1) 盛岡支会

(1) 動物の愛護・福祉及び野生鳥獣保護等の普及啓発の促進

ア 動物愛護週間行事における普及啓発事業

① 犬猫慰霊祭

9月に岩手県県央保健所犬猫保護センター（盛岡市三ツ割）において開催し、同センターに保護されたもののやむを得ない理由により処分された犬猫を供養し命の大切さを普及・啓発

② 動物愛護フェスティバル

9月23日(日)“馬っこパークいわて”において開催

獣医師会（県央3支会）、及び参加団体による催事を通して、人と動物が共生し命の大切さを育む社会の普及・啓発

無料健康相談、躰教室、犬・猫譲渡会、狂犬病予防広報及び盲導・介助・災害救助犬紹介等の催事

③ マイクロチップ（MC）装着促進

上記フェスティバル会場においてMC普及を目的に平成20年より無料装着デモを行ってきたが、平成30年度においても引き続き実施。

イ 岩手県動物愛護推進員（動物愛護推進ボランティア）推薦

ウ 野生動物保護等事業

岩手県応急治療業務への支援・協力

・ 幼傷病野生鳥獣応急治療業務指定獣医師推薦

・ 負傷動物応急治療業務指定獣医師推薦

(2) 狂犬病予防対策の推進事業

ア 責任担当・指定獣医師による予防注射の実施体制・実効性の確保

狂犬病予防注射指定獣医師は盛岡班24名、雫石班2名の体制で予防対策の推進

イ 月例会等を通じて注射実施・登録率向上に向けて保健所・市町村との協議・連携

ウ 狂犬病予防注射計画頭数：12,700頭

(3) 講習会、研修会開催による獣医師専門職の人材育成

ア 盛岡・岩手支会合同産業動物講習会開催

イ 野生動物保護等講習会開催

2) 岩手支会

(1) 動物の愛護・福祉及び野生鳥獣保護等の普及啓発の推進

ア 動物愛護フェスティバル事業

動物のいのちの大切さと人体に危害を加えないような躰や適正な管理の普及・啓発を目的に盛岡・岩手・紫波の三支会、動物愛護推進行政機関及び動物愛護団体と合同で開催する本事業を共催する。

イ 動物愛護普及啓発進事業

市町村、他団体等と合同で行う動物愛護関連行事を共催する。

ウ 犬猫慰霊祭及び家畜慰霊祭

県央保健所が中心となり盛岡・紫波・岩手支会、盛岡市保健所及び一般参列者によって行なわれる犬猫の慰霊祭と支会会員等から病性鑑定のために供された家畜の慰霊と供養のため中央家畜保健衛生所が行う家畜慰霊祭を共催する。

(2) 狂犬病予防対策の推進事業

ア 狂犬病予防ワクチン接種の支援

① 狂犬病予防注射指定獣医師数：12名

② 狂犬病予防注射計画頭数 (頭)

区分	八幡平市	滝沢市	岩手町	葛巻町	計
H30計画	870	3,060	750	320	5,000

イ 狂犬病予防会議

市町村担当者との連携を図るため岩手県県央保健所が主催する本会議を共催する。

(3) 学会参加促進事業

県外で開催される東北三学会及び年次大会に私費で参加した会員の参加費として、一律に1万円を助成する。

(4) 講習会、研修会開催による獣医師専門職の人材育成

支会会員が各種学会等で発表した演題や外部講師による各種症例等をテーマに開催し、岩手県中央家畜衛生協議会、他支会との共催で実施する。

開催時期：平成31年3月

(5) 福利厚生事業

会員の慶弔に関する事項について、支会内規に基づき交付する。

3) 紫波支会

(1) 獣医学術の振興・普及、獣医療技術の向上及び情報発信

ア 獣医学術地区学会への派遣助成等の検討

(2) 動物の愛護・福祉及び野生鳥獣保護等の普及啓発の推進

ア 動物愛護週間等における普及啓発事業

① 動物愛護週間フェスティバル実施

② 訪問交流会への協力

(3) 狂犬病予防対策の推進事業

ア 狂犬病予防のため地区市町村との連携

イ 狂犬病予防普及啓発事業

ウ 狂犬病予防注射指定獣医師数：5名

エ 狂犬病予防注射予定頭数：2,700頭

(4) 講習会、研修会開催等による獣医師専門職の人材育成

ア 紫波支会研修会の開催

イ 獣医学術地区学会等への派遣促進

(5) 職域部会・専門委員会活動の推進と獣医療に係る課題への対応

ア 各種研修会への参加要請

イ 専門委員会会議等への派遣

(6) 福利厚生事業

ア 総会后懇親会開催

4) 岩手大学支会

- (1) 獣医学術の振興・普及、獣医療技術の向上及び情報発信
 - ア 東北地区三学会発表
- (2) 動物の愛護・福祉及び野生鳥獣保護等の普及啓発の推進
 - ア 東日本大震災に係る被災動物支援活動
 - ① わんにゃん号による被災地派遣、セミナー開催、動物病院訪問
 - ② 福島原発汚染地域における大動物の保護・支援活動
 - イ 動物愛護フェスティバル（盛岡市）参加、しつけ教室の開催
 - ウ 動物感謝デー（日本獣医師会主催、東京、12月）参加
- (3) 講習会、研修会開催等による獣医師専門職の人材育成

5) 花巻支会

- (1) 獣医学術の振興・普及、獣医療技術の向上及び情報発信
 - ア 獣医学術に関する講習研修会の開催
 - イ 支会情報誌「ちょうしんきニュース」の発行（年2回以上発行）
- (2) 動物の愛護・福祉及び野生鳥獣保護等の普及啓発の推進
 - ア 動物愛護週間等における普及啓発事業
 - ① 動物愛護フェスティバルの実施
 - ② 動物慰霊祭の実施
- (3) 狂犬病予防対策の事業推進
 - ア 市町担当者と狂犬病予防注射指定獣医師との連携を図る。
 - イ 狂犬病予防注射指定獣医師研修会への積極的参加
 - ウ 狂犬病予防注射接種率の向上対策
 - エ 狂犬病予防注射指定獣医師数：12名
 - オ 狂犬病予防注射予定頭数：7,900 頭
- (4) 講習会、研修会開催等による獣医師専門職の人材育成
 - ア 花巻支会学術講習会開催
 - イ 県南四支会合同研修会への参加
- (5) 学術臨床研修部会、公衆衛生部会、及び情報宣伝厚生部会の活動推進

6) 水沢支会

- (1) 動物の愛護・福祉及び野生鳥獣保護等の普及啓発の推進
 - ア 動物愛護に関する普及啓発事業
 - ① 動物愛護フェスティバルの開催
 - ② 伴侶（ペット）動物慰霊祭
 - ③ 犬の飼い方教室
 - イ 幼傷病野生鳥獣応急治療業務支援
- (2) 狂犬病予防対策の推進事業
 - ア 狂犬病予防注射指定獣医師協議会を通じて円滑に推進する。
 - イ 狂犬病予防注射指定獣医師数：12名
 - ウ 狂犬病予防注射予定頭数：4,200頭
- (3) 講習会、研修会開催等による獣医師専門職の人材育成
 - ア 研修会開催
 - イ 「しよども」発行事業
- (4) 職域部会・専門委員会活動の推進と獣医療に係る課題への対応
- (5) 福利厚生事業
 - ア 歓迎会事業
 - イ レクリエーション事業
 - ウ 新年交賀会事業

7) 一関支会

- (1) 動物の愛護・福祉及び野生鳥獣保護等の普及啓発の推進
 - ア 動物愛護週間等における普及啓発事業
 - ① 動物愛護フェスティバルの開催
 - ② 伴侶（ペット）動物慰霊祭の開催
 - ③ 犬の飼い主マナーアップ推進活動
 - イ 幼傷病野生鳥獣応急治療業務支援
- (2) 狂犬病予防対策の推進事業
 - ア 狂犬病予防注射指定獣医師協議会を通じて円滑に推進する。
 - イ 狂犬病予防注射指定獣医師数：10名
 - ウ 狂犬病予防注射予定頭数：5,700 頭
- (3) その他事業
 - ア 講習会、研修会開催等による獣医師専門職の人材育成

- ① 講習会・研修会の開催
- イ 職域部会・専門委員会活動の推進と獣医療に係る課題への対応
- ウ 福利厚生事業として祝年会の開催

8) 遠野支会

- (1) 動物の愛護・福祉及び野生鳥獣保護等の普及啓発の推進
 - ア 動物愛護週間等における普及啓発事業
 - ① 動物慰霊祭の開催
 - ② 動物愛護フェスティバルの開催
(上閉伊気仙地方動物愛護管理事業実行委員会の活動強化)
 - イ 幼病傷野生鳥獣応急治療業務の支援
 - ウ 所有者不明の負傷動物応急治療業務の支援
- (2) 狂犬病予防対策の推進事業
 - ア 狂犬病予防注射事業のさらなる推進（登録・接種率の向上）
 - イ 狂犬病予防注射指定獣医師研修会への積極的参加
 - ウ 狂犬病予防注射指定獣医師連絡協議会の円滑な運営
 - エ 狂犬病予防注射指定獣医師数：8名
 - オ 狂犬病予防注射予定頭数：4,000頭
- (3) 講習会、研修会開催等による獣医師専門職の人材育成
 - ア 遠野支会講習会の開催
 - イ 県南四支会合同講習会へ積極的参加
 - ウ 関係機関団体が主催する獣医療講習会等への積極的参加
 - エ 獣医学術地区学会等への派遣助成
- (4) 家畜衛生・公衆衛生に関する事業に協力
 - ア 岩手県南家畜衛生推進協議会における事業推進及び連携強化
 - イ 岩手県県南家畜保健衛生所による家畜衛生防疫対策活動への協力
- (5) 地域畜産振興事業への参加協力

9) 宮古支会

- (1) 動物の愛護・福祉及び野生鳥獣等の普及啓発の推進
 - ア 動物愛護週間等における普及啓発事業
 - ① 動物慰霊祭の開催
 - ② 動物愛護フェスティバルの開催

- ③ しつけ教室の開催
- ④ 犬の散歩マナー向上キャンペーンの開催
- ⑤ 動物愛護に係るシンポジウムの開催
- ⑥ マイクロチップ装着デモンストレーションの開催
- イ 幼病傷野生鳥獣応急治療業務の支援
- ウ 所有者不明の負傷動物応急治療業務の支援
- (2) 狂犬病予防対策の推進事業
 - ア 狂犬病予防注射事業のさらなる推進（登録・接種率の向上）
 - イ 狂犬病予防注射指定獣医師研修会への積極的参加
 - ウ 狂犬病予防注射指定獣医師連絡協議会の円滑な運営
 - エ 狂犬病予防注射指定獣医師数：6名
 - オ 狂犬病予防注射予定頭数：3,700頭
- (3) 講習会、研修会開催等による獣医師専門職の人材育成
 - ア 支会講習会の開催
 - イ 関係機関団体が主催する獣医療講習会等への積極的参加
 - ウ 獣医学術地区学会等への派遣助成
- (4) 家畜衛生・公衆衛生に係る事業に対する協力
 - ア 岩手県中央家畜衛生協議会における事業推進
 - イ 岩手県中央家畜保健衛生所による家畜衛生予防対策活動への協力
 - ウ 岩手県宮古保健所への協力
- (5) 地域畜産振興事業への参加協力

10) 久慈支会

- (1) 動物の愛護・福祉及び野生鳥獣保護等の普及啓発の推進
 - ア 動物愛護週間等における普及啓発事業
 - ① 児童絵画コンクール
6月～9月 久慈市「あーとびる麦生」ほか
 - ② 講演会
9月 久慈市「久慈地区合同庁舎」
 - ③ 犬のしつけ教室・譲渡会・動物慰霊祭
9月 久慈市「久慈地区合同庁舎」
- (2) 狂犬病予防対策の推進事業
 - ア 狂犬病予防注射指定獣医師数：6名

- イ 狂犬病予防注射計画頭数（特別会費の納入頭数）：3,100頭
- (3) 講習会、研修会開催による獣医師専門職の人材育成
 - ア 久慈・二戸支会合同研修会 8月 軽米町
 - イ 久慈支会研修会 1月 久慈市

11) 二戸支会

- (1) 動物の愛護・福祉及び野生鳥獣保護等の普及啓発の推進
 - ア 動物愛護週間等における普及啓発事業
 - ① 動物愛護フェスティバル：9月23日(日・祝)
二戸地区合同庁舎駐車場
 - ② 動物慰霊祭：9月23日(日・祝) 二戸地区合同庁舎駐車場
 - ③ 動物ふれあい写真コンクール：9月 二戸市「ショッピングセンターニコア」、
「二戸地区合同庁舎」
 - ④ 犬の散歩マナー向上運動：5月 二戸市、10月 九戸村
 - ⑤ 愛犬のしつけ教室 : 6月、7月、9月、10月
 - ⑥ 動物ふれあい教室 : 6月 保育所、10月 小学校
 - ⑦ 動物ふれあい訪問活動 : 7月 高齢者福祉施設
 - ⑧ 命の授業 : 10月 小学校
 - イ マイクロチップ普及事業 : 9月 犬・猫対象にマイクロチップ装着
デモンストレーション
- (2) 狂犬病予防対策の推進事業
 - ア 狂犬病予防注射指定獣医師数：5名
 - イ 狂犬病予防注射計画頭数：2,900頭
- (3) 講習会、研修会開催による獣医師専門職の人材育成
 - ア 二戸・久慈支会合同研修会 8月
 - イ 家畜臨床検討会 6月、10月
 - ウ 獣医師専門職業務に対する理解醸成 9月
 - エ 二戸支会研修会 1月